

第二回高エネルギー春の学校

KEK 素核研

中村 勇

isamu.nakamura@kek.jp

他発起人一同

2012 年 (平成 24 年) 8 月 20 日

1 はじめに

2012 年 5 月 17 日から 3 日間滋賀県守口市のラフォーレ琵琶湖で行われた第二回高エネルギー春の学校 (以下春の学校) について報告します。

春の学校 (或は琵琶湖スクール) についてあまりご存じない方もおられると思いますので, 最初に簡単に説明しておきます。

事の起りは昨年起きた震災の影響で新潟で行われる予定だった春の学会が中止になったことです。これにより, 学生にとっては貴重な研究発表の場が奪われることとなりました。そこで, 失われた発表の場を与えることと, 大学間の学生の交流を深める場として, どこかで修士の学生を対象とした研究会をやろうと言う提案が関西方面の山崎さん (神戸大), 花垣さん (大阪大), 戸本さん (名古屋大) からあがり, それに賛同する形で関東から横山さん (東京大), 丸山さん (KEK), 中村 (KEK) が発起人に加わりました。会場は関西方面からの提案と言うことで, 関西にあって研修施設が多そうな琵琶湖周辺でやろうと言うことになり, 彦根ビューホテルで行われました。

2 第二回春の学校

第一回目が成功裏? に終わり, 学会の代わりとなる発表の場と言う意味は無くなりましたが, 大学, 実験間の交流の場としての意味はあるだろうと言うことで, 今年も春の学校は計画されました。今回は前年の反省から日程は 2 泊 3 日に拡張して, 上記のように 5 月 17 日からラフォーレ琵琶湖に於いて行われました。参加者の募集は hecforum 等メイリングリストへの告知と発起人からの口コミにより行いましたが, 約 50 人の学生さんに応募いただき, 招待した講師, 発起人等スタッフ 15 人を含め最終的に約 70 人で学校を行うことができました。

プログラムは招待講師による講義と学生による発表が約半々で, 学生による発表はスロット (15+5 分) を 20 用



図 1: 集合写真

意して, abstract を送ってもらい poster と振り分けることとしました。講師は現象論を東京大の浜口さん, ニュートリノを東工大の石塚さん, LHC について ICEPP の小林さん, ダークマターについて神戸大学の身内さん, そして検出器について KEK の幅さんにお願しました。講師の皆さんには対象が修士の学生と言うことでわかりやすい講義をしていただき, 学生の評判も上々? だったと思われま。特に実験の修士の学生に標準模型を越える物理に関する現象論をわかりやすく講義するという, ほぼ不可能な要求に応えていただいた浜口さんには感謝します。



図 2: 戸本さんによるはじめのこぼ

ところで、今回の学校では参加者の発表への応募を促すために優秀な発表を表彰し金一封を出すと言う提案及び金一封の提供！が花垣さんからあり、採用されました。審査は学校の参加者による投票で行い、賞金の額は発表に気合いが入る程度と言うことで最優秀賞は2万円、優秀賞5千円として、賞金のスポンサーの名前をとって『花垣賞』と名付けられました。事前の宣伝がどの程度通じていたかわからないので、金一封の講演の応募数への効果は未知数ですが、開会時に各賞のアナウンスはしたので、その効果があったのか、講演者の熱意は高かったと思います。また、講義、発表を聞いている参加者にも元気になってもらおうと言うことで、活発な発言、質問等により場を盛り上げた人に特別賞3千円を出すことにしました。学校の目的である大学間、実験間の交流を深めると言う意味で、多方面に宣伝した努力が実ったのか、講演、参加者のバラエティーは広く、実験は ATLAS, ILC, Tevatron 等の Energy frontier の実験から Belle, J-PARC, Neutrino, 中性子, $g-2$, ポジトロニウム等々、大学は北(東)は東北大から南(西)は九州大までと、参加した学生さんたちの見聞を広げるお手伝いはできたかと思えます。発起人の顔ぶれを見て想像がつく方もおられると思いますが、学校の雰囲気は非常にフランクかつざくばらんで、参加された学生さんたちにとっては敷居の低いものだったと思います。そういった雰囲気のせい、あるいは特別賞の効果か、講義、発表では参加者からの質問も多く、活発な議論が行われました。

会を盛り上げ、学生間の交流を深めると言う点ではポスターセッションは非常に良い機会でした。セッションは夕食後行い、会場にはスナック等も用意したのが効いたのか、各ポスターの前で積極的にディスカッションが行われる姿が見られました。ポスターセッションの後は場所を移してフリーディスカッションが行われたようで、学生間の交流という目的は十分に果たしたかと思えます。



図 3: ポスターセッション

花垣賞の投票は学生による最後の講演の後、全講演を聞いた参加者により行いました。審査は発起人で行いま

したが、最優秀賞、優秀賞は得票数によりすんなりと決定されました。特別賞は質問などで会を盛り上げた印象、投票数、発表内容、学年などを鑑みて3人を受賞者に選びました。以下に各賞を受賞された方を記しておきます。

最優秀講演賞: 神田聡太郎 (東京大学)

『J-PARC におけるミュオン $g-2$ /EDM 精密測定』

優秀講演賞: 吉田学立 (東北大学)

『KamLAND-Zen 実験～希な現象探索で挑む宇宙物質優勢の謎～』

特別賞: 大石航 (九州大学) 廣瀬茂樹 (名古屋大学) 松本悟 (九州大学)



図 4: (写真左) 花垣賞受賞者 吉田さん (左) 神田さん (右) (写真右) 特別賞受賞者 右より廣瀬さん、松本さん、大石さん

3 おわりに

今年の春の学校を無事に終えることができました。参加して下さった学生さん、スタッフの皆様、講師の皆様へ感謝します。また、学生さんに参加を推薦して下さった先生、学生に旅費を出して下さった先生方に感謝します。発起人一同はこの高エネルギー春の学校を来年度以降も続けて、『春の学校』とか『琵琶湖スクール』という言葉が高エネルギー業界に通じるようになればと願っています。拙文を読んで春の学校を認知いただき来年度以降の開催に協力していただければ幸いです。

参考文献

[1] 第一回@彦根ビューホテル

<http://osksn2.hep.sci.osaka-u.ac.jp/spring2011/school/>

[2] 第二回@ラフォーレ琵琶湖

<http://ppwww.phys.sci.kobe-u.ac.jp/~yamazaki/events/spring2012/>

<http://kds.kek.jp/conferenceDisplay.py?confId=9921>